

地域をつなぐ学校

学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働しながら
スクール(地域学校協働活動)の取り組みを積極的に進めています。
おくのキャンパスでの取り組みを例に説明します。

おくのキャンパス
代表的な取り組み **3**



放課後、土曜の学習支援 放課後カッパ塾、土曜カッパ塾

放課後カッパ塾では放課後の学習支援、土曜カッパ塾では、漢字検定、英語検定の試験合格に向けた学習に、地域の人たちが熱心にお手伝いをしてきています。



おくのキャンパス
代表的な取り組み **4**

英語活動支援

おくのキャンパスでは、英語教育に力を入れています。週3回のイングリッシュタイム(英会話の時間)などの英語活動に、地域の人たちがお手伝いに来てきています。



平成30年度

おくのキャンパスの
コミュニティスクール(地域学校協働活動)が

文部科学大臣賞を受賞

「子どもたちが多くの人との交流を通して豊かな経験ができる体制が構築され、地域の人とともに協働活動が実践されている」との評価から、今回



市長表敬訪問の様子

の受賞となりました。市では平成28年度のひたち野うしく小学校でのカッパ塾の活動への受賞に続いて2度目の受賞となり、3年間で2回、市の活動が国の表彰を受けています。

おくのキャンパス
代表的な取り組み **5**



オーストラリアから ホームステイに来たときも、 地域住民が協力体制で

おくのキャンパスでは、オーストラリアの学校と交流をしています。昨年度、オーストラリアの子どもたちがホームス



テイに来たときは、地域の中でホストファミリーになったり、さよならパーティーでは、手料理で「おもてなし」を行ったり、大変喜んでいただきました。



おくのキャンパスでの取り組みが市内の他の地域に先駆けて実施されたのはなぜ？

ながると考えました。
そこで、奥野小学校、牛久第二中学校では、おくのキャンパスと名付けて小中連携を進め、特色ある教育を実施するとともに、希望すれば市内全域から通学することができる「小規模特認校」の制度等も導入。コミュニティスクールの推進も児童生徒の増加を目的に、市内の他の地域に先駆けて実施されました。これらの取り組みの結果、平成30年度(2018年度)は、50人を超える児童生徒が、学区外から奥野小学校、牛久第二中学校へ通学しています。

奥野地区は人口減少が進んでおり、奥野小学校、牛久第二中学校の児童生徒数も減少しています。市では、このような状況の中で、学校の統廃合を進めるのではなく、逆に小規模でも魅力的な学校にして存続を図ることこそが地域コミュニティの維持形成にもつな

奥野地区における奥野小へ入学する新1年生の予想児童数

◆2019年度:28人	◆2020年度:20人
◆2021年度:30人	◆2022年度:15人
◆2023年度:12人	



県内市町村立小中学校では初
パリのユネスコ本部により

ユネスコスクールに認定

ユネスコ本部での書類審査を受け、平成30年7月27日付で、おくのキャンパスがユネスコスクールとして正式に承認されました。承認されると、世界182カ国1万1,500校、国内1,116校(平成29年10月現在)の加盟校と学習の交流ができます。世界的な学校間ネットワークの一員として経験や情報を共有することができ、今後、地域に根ざした環境教育や国際理解教育が期待されます。



特集 市が推進する学びのカタチ

地域が支える学校

市では、変化の激しい現代社会に対応できる人材を育てるため、**子どもたちの豊かな学びや成長を支える「コミュニティ**
今回は、市が今、進めようとしている活動について、

おくのキャンパス
代表的な取り組み **1**

Sunday Okuno Kappa Academy

通称:日曜カッパ塾

学校の先生だけが、子どもたちの先生ではない。専門知識や、得意な技術をもっている方が、地域にはたくさんいます。その方々を講師として、子どもたちはさまざまな体験をしています。※料理教室、自然観察会、茶道教室、プログラミング教室 ほか



例えばこんな活動
しています!

おくのキャンパス
代表的な取り組み **2**

おくのふれあいまつり

学校が中心となって行っていたお祭りが、地域が主体となって実施するようになりました。奥野の子どもと大人と一緒にまつりを作り、温かなふれあいの場となっています。



わたしたちの地域では
どんな活動をしようかな?



学校や地域の皆さんで話し合いながら、各地域の特色を活かした活動を実施します。

今後は
市内全域でも
充実させます!

おくのキャンパスコミュニティスクールは、市内の他の小中学校に先駆けて平成29年度から始まりましたが、平成31年度からは全ての小中学校で導入されます。

今後は市内全域で、子どもたちの豊かな育ちを支える地域と学校の協働活動を活性化させていきたいと考えています。

地域ならではの活動を
おくのキャンパスにはコーディネーターと呼ばれる地域学校協働活動推進員が私を含めて5人いて、学校運営協議会と実際の活動の橋渡しをしています。土曜カッパ塾・日曜カッパ塾やおくのふれあいまつりなどの企画から運営まで担っています。私は牛久二中出身で、子どもも卒業生。「奥野のために役に立てれば」と参加しました。私たちが地域住民が主導している日曜カッパ塾では、

さまざまな体験活動に力を入れています。例えば、プログラミング教室では竜ヶ崎二高の高校生が講師となり、まちづくりについて考え、プログラミングし、最終的には東京でプレゼンを行いました。今後も伝統的な体験から時代に合わせた新しい体験まで企画していきたいと思っています。現在、日曜カッパ塾に参加を希望される地域の方たちや、協力してくれる団体や企業が増えてきて、地域のつながりの場として定着しつつあるのを感じています。今後もこのつながりを大切に、奥野地区の特性を生かした運営を続けていきたいですね。

おくのキャンパス
コーディネーター
鈴木由美子さん

